

# 「こおりやまの米」通信

平成24年12月19日



郡山市  
イメージキャラクター  
「がくとくん」

編集：郡山市

JA 郡山市（ .921-0724）

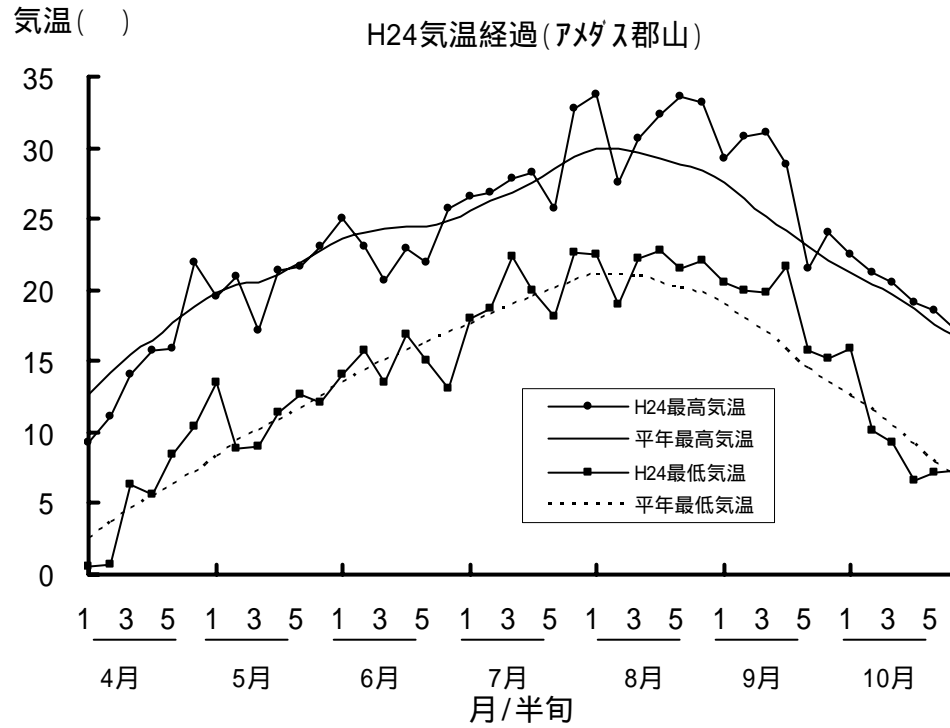
NOSAI 郡山田村（ .933-3307）

県中農林事務所農業振興普及部（ .935-1310）

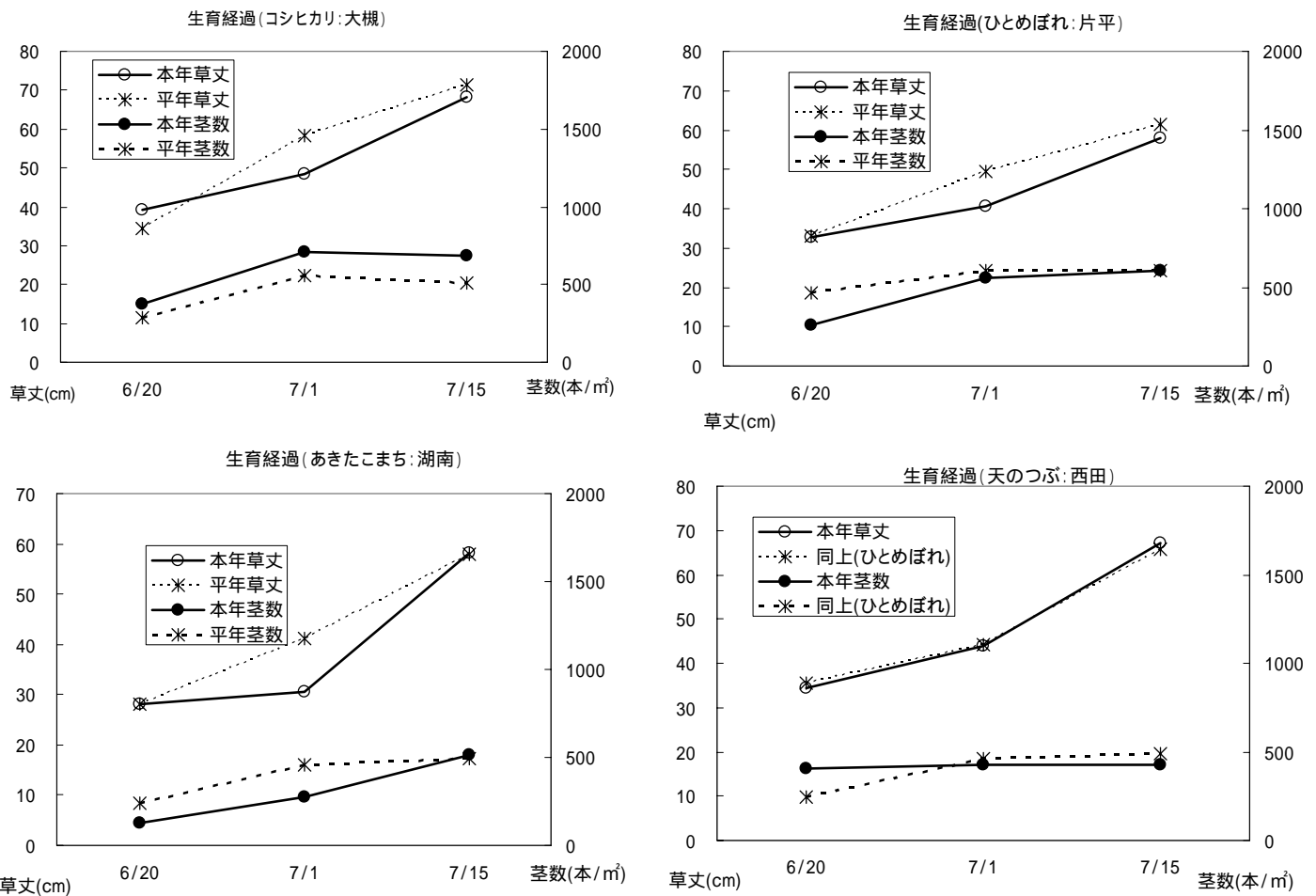
発行：郡山市農作物生産対策協議会（郡山市営農推進課 .924-3761）

Vol.9 最終号（生育調査ほ結果）

## 1 気象経過



## 2 生育概況



- (1) 移植期：5月1半旬の気温は高かったものの、それ以降低く経過しましたが、移植後の生育は平年並みとなりました。
- (2) 生育初期：平坦部は草丈が平年に比べやや長く、茎数はやや少なくなりました。湖南地区は草丈が平年並み、茎数は少なくなりました。
- (3) 幼穂形成期：平坦部は草丈が平年より短く、茎数は多くなりました。湖南地区は、草丈が平年並み～やや短く、茎数は平年並み～多くなりました。
- (4) 出穂期：出穂は平坦部のコシヒカリが平年より2日早く(8月10日)、ひとめぼれは1日早く(8月6日)なりました。湖南地区のあきたこまちは平年より2日(8月10日)遅れました。
- (5) 成熟期：稈長はやや短く、穂長はやや長くなりました。

### 3 生育調査ほ収量調査結果

- (1) 生育初期の生育の遅れのため、わら重は平年に比べ、大幅に減少しました。精籾重は幼穂形成期以降の生育の回復により平年並となったと考えられます。
- (2) コシヒカリはm<sup>2</sup>当り籾数の増加、登熟歩合の向上により平年よりやや多い精玄米重となった。登熟歩合の向上は出穂期以降の天候に恵まれたものと考えられます。
- (3) ひとめぼれのm<sup>2</sup>当り籾数は、平年並を確保したものの、出穂後の一時的な低温により登熟歩合が低下したため、平年より少ない精玄米重となったと考えられます。
- (4) あきたこまちは登熟歩合が向上したものの、全般を通しての生育の遅れのため、平年並の穂数が確保されず、m<sup>2</sup>当りの籾数が少なかったため、平年より少ない精玄米重となりました。

場所 町 地区	品種	総重 (kg/10a)	わら重 (kg/10a)	精籾重 (kg/10a)	粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	籾数		千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	
							粒/穂	100粒/m <sup>2</sup>			
大槻	中ノ平	コシヒカリ	1502	659	791	635	616	82.0	385	22.7	83.0
		平年	1800	959	805	637	598	80.0	338	21.8	75.2
片平	谷地	ひとめぼれ	1321	566	719	579	568	63.0	305	22.6	83.9
		平年	1534	710	801	660	657	56.0	288	23.1	92.3
湖南	赤津	あきたこまち	1620	637	917	752	741	82.0	326	22.4	93.4
		平年	1850	828	995	812	795	83.0	356	21.7	86.8

注) 平年は直近5カ年の平均

### 4 天のつづ調査ほ生育および収量調査結果

- (1) 地区により収量にばらつきが生じました。収量が低かったほ場の要因としては、直播栽培で播種が遅れ、播種の遅れが生育の遅れとなり、出穂までの生育量(総重)が確保されなかった、疎植による穂数不足が考えられました。
- (2) ひとめぼれに比べ、収量は大幅に増加しました。要因としては生育量(総重)が大きく、m<sup>2</sup>当りの籾数が多かったためと考えられます。収量の確保のためには生育初期から幼穂形成期にかけての生育が重要と考えられます。
- (3) ひとめぼれ並のm<sup>2</sup>当りの籾数では、収量はひとめぼれより少なくなりました。
- (4) 天のつづを栽培するにあたっては、生育量(総重)の確保、坪70株の植栽密度が重要と考えられます。

場所 町 地区	品種	総重 (kg/10a)	わら重 (kg/10a)	精籾重 (kg/10a)	粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重 (kg/10a)	籾数		千粒重 (g)	登熟歩合 (%)	
							粒/穂	100粒/m <sup>2</sup>			
日和田	北野	天のつづ(直播)	1135	581	490	385	320	75.6	273	22.3	55.4
三穂田	野田	天のつづ	1334	623	674	535	527	60.7	239	22.0	90.6
喜久田	前田沢	天のつづ	1526	655	825	666	642	69.8	293	23.1	86.0
西田	丹伊田	天のつづ	1497	620	825	683	676	76.0	295	23.0	91.2
西田	丹伊田	ひとめぼれ	1273	555	676	558	550	61.0	232	23.2	91.2

### 次年度放射性セシウム吸収抑制対策(カリ)

土壌分析に基づき「カリ含量の低い水田では、土壌の交換性カリ含量が25mg/100g(乾土)程度となるように土壌改良した上で、地域慣行の施肥を行う」ことを原則として、土壌分析が難しい場合には、慣行カリ施肥に塩化カリを10kg上乗せして施用する。:「ふくしまからはじめよう。」農業技術情報(34号)より